武蔵野市長殿
武蔵野市環境生活部長殿
(仮)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員長殿

2009.1.22

(仮)新クリーンセンター及びその周辺のことについての意見

(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会(以下検討委員会)が昨年８月に発足し、今回市報「武蔵野クリーンセンター特集号」も発行されました。現クリーンセンター実現の際、地元住民として、また地元住民団体からの選出委員として「クリーンセンター建設特別市民委員会」に参加した者の一人として今回の建て替えという事態に「もう建て替えを考える時期であるのか」と感慨深いものがあります。

思えば「一夜明けたら地元住民」になっていた 1978 年末から 30 年、全市民の日常に深くかかわる事柄だけに、「ごみ問題」は武蔵野市の「市民参加」の量と質のレベルアップとともに進んできたと感じています。困難を乗り越え、過去に学び未来をも射程に入れた広い視野で多様な意見をまとめ上げたとき、技術面とともに「市民参加」「住民参加」「職員参加」「専門家・技術者参加」のいっそうの前進を見ての語り草になるような第 2 期クリーンセンター時代が幕を開けることになるのでしょう。

行政の方々も、日ごろの業務に加え、検討委員会の事務局、このプロジェクト全体をハード・ソフト両面から成功させるべく努力されていることと敬意を表し、あわせて日ごろ考えておりますことの一端をお伝えしたく、素人のつたない、岡目八目の思いをまとめてみました。

この大プロジェクトは、大変でもありますが、関係者(全市民にとっても)にとってはまたとない総合的体験学習の機会であり、結果は「地球環境」「市民・住民の日常生活」「税金の使い方」「参加・協働」など多岐にわたる大きな成果が期待できるので、30 年に１度のチャンスと受け止めてしっかり取り組んでいただきたいと思います。委員会はもちろん、ごみの排出者としての市民・事業者などの質の高い参加を実現するためにも、行政の横断的な取り組みを期待しています。

準備を含めての全期間を、市民全体で「ごみ問題(につながる環境問題)」について、現時点での最良の判断を導きだし合意に到達する過程であると捉え、勉強し、真摯に話し合い、協働し、よき結論に至りたいものです。その場合の次の点についての日ごろの考えを述べさせていただきます。

１．減量について

現クリーンセンター建設に際しては、武三保組合ふじみ焼却場周辺住民のピケ騒動もあり、日々のごみ処理に追われながら自区内処理の世論づくりが進んでいった時期で、当時は全市ぐるみで「分別・減量」が叫ばれていたと記憶しています。市議会には廃棄物対策特別委員会があり、市民はクリーン武蔵野を推進する会の前身の組織が地域集会を持ったり、清掃対策特別委員会でも検討課題にするなど、市報にもたびたび呼びかけられて減量・分別の掛け声は全市で追力が感じられるものであって集団回収や分別が進んでいった。それは現在にも引き継がれ他の市民運動と比べてもかかわる市民の数も多く、行政との協働という面でも進んでいるように感じます。熱心な参加市民の存在の反面、また関係者のご努力にもかかわらず、この時期、全市民的には「減量」「新クリーンセンター」についてもいま一つ関心が薄いように感じられて残念です。30 年に１度のよい機会と捉えて「減量」のキャンペーンと実際行動を巻き起こしていただきたいと思います。また、市民の熱意を集めて、自治体と

しての国や製造元に向けての「減量」の意思を示していただきたいと思います。

２．建て替えについて

クリーンセンターの建て替えそのものが、巨大な廃棄物を伴うという意味からも、節税の面からもクリーンセンターを出来るだけ長持ちさせるのは重要課題です。これは現クリーンセンターの延命とともに、これからのものも現在までのメンテナンスの経過にも学んで、例えば、工場と管理棟と切り離したり、事故があっても一部分の組み換えで最小限に抑えるなど、可能性に挑戦してもらいたいと思います。中間処理施設のあり方については、償却期間終了の度に原点に戻ってその時点の科学水準に合わせて衆知を集めることで、よりコンパクトに、より合理的な姿が作れるのではないかと思います。

稼働中のものに対して耐用期限を決めるのは、公正な第３者機関による点検・評価と、判断の根拠になる情報の徹底した公開を伴って、行政が責任を持ってよい部分ではないかと思います。現在までに 120 億円がかかったとすれば、1 ヶ月でも 1 年でも延命できれば相当な節約になるはずです。その上で、現在すすめられているような報告・情報の提供があり、全市的な合意作りが進められるといいのではないでしょうか?

３．中間処理方法・処理施設・最終処分方法について

最終処分場の後がないこと、地球環境の悪化を考えれば、エコセメントの将来性なども含めて根源的なことから相当先を見て議論をすべきであり、それを全体で共有すべきであると考えます。

４．用地について

前回に比べて時間的余裕も担保もあり、経験をつんだ今回こそが本気で他にも用地を求める努力をすべきであると考えます。近隣との提携は出来ないか？　公有地(国・都・市有地・その他)の洗い出し。公園も例外とせず、差し替えなども考える。こうして何十年かたつと必ず訪れるチャンスに向き合い、武蔵野市は、どの時もその時点で最良の施設と最善の用地を衆知を集めて選んだ、と胸をはれるようでありたいと思います。施設はコンパクトにすることで、用地の候補地も出てくる可能性が広がるので、発電で国の助成が着
つくからというような建物を大きくする思考に陥らず、また分散できるものは分散を考えて用地の候補を増やすべきと考えます。単純な建物が一番丈夫で危険に強いのは常識が教えるところです。

もし今、３箇所の用地があり、順番に 30 数年ごとに動かせるとすると、60～70 年に一回の持ち回りということになり、ごみ問題についての関心もいっそう広がり、周辺まちづくりへの投資も分散できることになります。そして考えていただきたいのは、今回の関係者の取り組みようが、良きに付け悪しきにつけ次回第３次及びそれ以降の時にも反映されるはずだという、いわばお手本になるのが今回の位置づけだからです。

５．周辺まちづくりの検討について

現在の検討委員会には、現クリーンセンターの周辺 3 団体から委員が参加しています。用地選定の時点からの地元３団体としての長期にわたる運協への参加や貴重な経験を買われてのこととして当然なことであり、用地はまだ決まっていないはずです。周辺まちづくりは用地が決定してから地元住民の参加を得てすすめられるべきであり、丁寧な取り組みが地元となる住民にも通じてその協力を得られることにつながると思うのです。

以上

武蔵野市吉祥寺北町５